

研究主題：自己の確かで豊かな言語環境を基盤とし、考えを深め合う協働的な学びの在り方の探究 (大和高田市立浮孔西小学校)

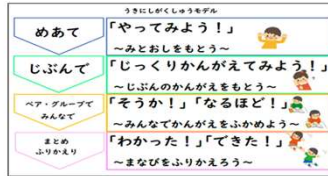
1. 研究の概要

【研究の趣旨】

- ・ 児童が多様な考えを表出するための言語環境を高めた上で、自らの「考え」を深めたり広げたりする協働的な学びを成立させる学習過程を追究する。

(1) 文字の確実な習得と豊かな語彙力を育てる。

- ① 読み書きスクリーニングによる実態把握と熟達トレーニング
- ② 読書タイムとステップアップタイムの活用
- ③ 自分の考えを「書く」ことの習慣化



(2) 浮西授業モデルを構築し、国語科を中心とした授業づくりに取り組む。



【児童】

- ・ 自分の考えを「書く」ことにより、主体的に自力解決する。
- ・ 「自力解決→ペア・グループ交流→全体交流」と段階的に設定された学習場面で協働的に学ぶ。
- ・ 自身の学びを振り返り、「書く」ことで確かめる。

【教師】

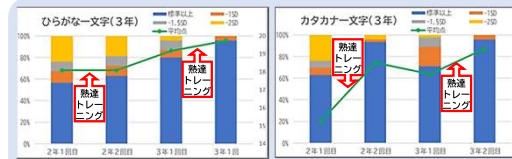
- ・ 「学びの見通し」となるめあてと「学びのふりかえり」を意識し、授業モデルに沿い、実践する。

(3) 学習アンケートを実施し、児童の実態と意識の変化をつかむ。

- ・ 1学期と3学期に「国語の学習」「考えをもつこと」についてアンケートを実施する。

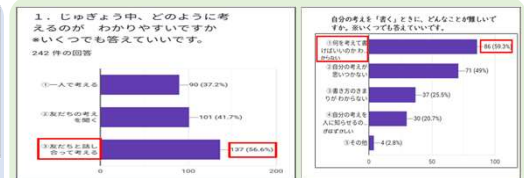
学習アンケート	
一、国語の学習について	
1. 好きなこと(得意なこと)を選びましょう(選択肢:読む・書く・話す・聞く・なし)	
2. 嫌いなこと(苦手なこと)を選びましょう(選択肢:読む・書く・話す・聞く・なし)	
二、考えをもつことについて	
1. 学習中、どのように考えるのがわかりやすいですか(選択肢:一人で考える・考えを聞く・友だちと話し合う)	
2. 自分の考えを「書く」ことは好きですか	
3. 自分の考えを「書く」時に、難しいと感じることはありますか。	
4. 自分の考えを書く時、どんなことが難しいですか(選択肢:何を書けばいいかわからない・思いつかない・書き方のまじりかわからない・はずかしい・その他)	

2. 研究のまとめ



【読み書きスクリーニング結果(3年生)】

- ・ 読み書きスクリーニング結果から、学力定着のための反復学習の効果と必要性が明らかになった。
- ・ 考えを言葉にして書き「表す」ことを習慣化することで、書く量が増えたり、自分で考えて書くことができるようになったりした。
- ・ 全学級で、浮西授業モデルに沿った「児童が、書き表した考えを交流し協働的に学ぶ授業づくり」を行った。未だ約60%の児童が「何を考えて書けばいいかわからない」と答えている。国語科では言葉による見方・考え方を学びの中心におき、考えを「つなぐ」指導の在り方をさらに追究する。「話し合って考える」ことが分かりやすく、「書く」ことが好きという児童の持ち味をいかし、自身の学びを深め合うことを意識した授業づくりを継続する。



自分の考えを「書く」ことは好きですか。(2年)	79%→89%
自分の考えを「書く」ときに難しいと感じることがありますか。(3年)	67%→56%
自分の考えを「書く」ときに難しいと感じることがありますか。(5年)	64%→56%

【学習アンケート 上:3学期
下:1学期→3学期】

3. 研究へのコメント

自己の確かで豊かな言語環境及び考えを深め合う協働的な学びを実現するための手法として、読み書きスクリーニング等の「文字の確実な習得と豊かな語彙力の育成」、更には自分の考えを「あらわす」ための「浮西授業モデル」が実践事例として示された研究報告である。

今回の研究を通して見えてきた今後の研究の取組として挙げられている「自分の考えを進んで表現できる児童の育成」「児童をつなぐ指導の在り方」「児童が学びを実感できる授業作り」については、その研究の必要性を明確にするとともに、今回の研究を更に発展させた取組としていくことを期待する。